

交通安全教育映像

文部科学省選定
(一財)全日本交通安全協会推薦

交通ルールを守り、常に安全運転を心掛けなければ
誰もが、加害者、被害者のどちらにもなり得るのだ

つくな

償いの十字架



出演 野村宏伸
中原果南
佐々木梅治
山口康智

カラー 27分
DVD 価格 70,000円(字幕選択式)
※価格は本体価格です

制作 ■ 新生映画株式会社

つぐな 償いの十字架

映画のねらい

自らが一度は交通事故の被害者の側に立ちながら、その教訓を生かせず、今度は自分自身が交通死亡事故を引き起こしてしまう主人公。

事故の波紋は大きく、やがて双方の家庭は崩壊していく。

この映画では、交通ルールを守り、安全運転を心掛けなければ、誰もが加害者、被害者のどちらにもなり得る事を警告するものである。

映画の内容

和菓子店の三代目、橋本勇は、妻優子、父清と共に店を切り盛りしていた。

或る日、勇の長男猛が自転車で交通事故に遭ってしまう。幸い軽傷ですんだのだが、勇は「考え事をしていてつい・・・」と言って謝る加害者の胸ぐらを掴み、罵声を浴びせる。

数日後、勇は配達を終え、学校のテストで100点をとったらサッカーボールを買ってあげるといふ猛との約束を果たすため、閉店間際の店に向かって車を走らせていた。渋滞の幹線道路を避け、裏道へとスピードを上げ走行していたその時、鈍い音がし、一旦車を停止させる。

しかし、気が動転していた勇は現場を離れてしまう。我に返って事故現場に戻った勇の前には、頭から血を流した村上和也が倒れていた。

病院に搬送された村上は亡くなる。

やがて勇の起こしたひき逃げ事故は、被害者はもとより、勇の家族にも影を落としていく。猛は仲の良かった友だちから仲間はずれにされ、店の注文もめっきり減り、やがて立ち行かなくなる。

交通刑務所に入る勇に、妻優子は共に一生償って行こうと誓う。

数年後、刑期を終え、事故現場に花を手向ける勇の姿があった。

一度は被害者の立場に立ちながら、その教訓を生かせず、今度は自らが加害者となった己のふがいなさ、被害者に対する謝罪の気持ちから、その場に泣き崩れる。

制作 ■ 新生映画株式会社

〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町6-20-403
TEL 03(3464)4841 FAX 03(3464)4855

お問い合わせ・お買い上げは